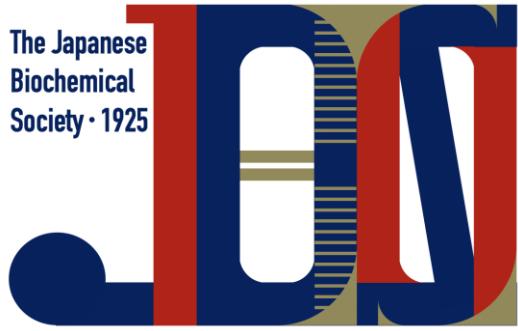
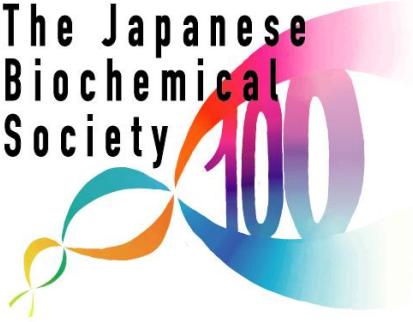
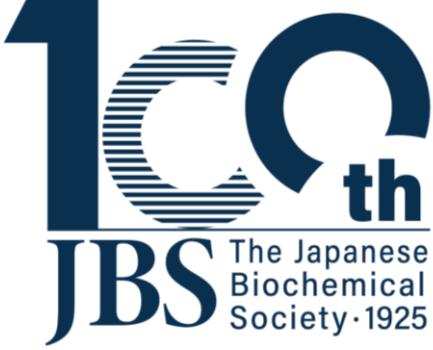
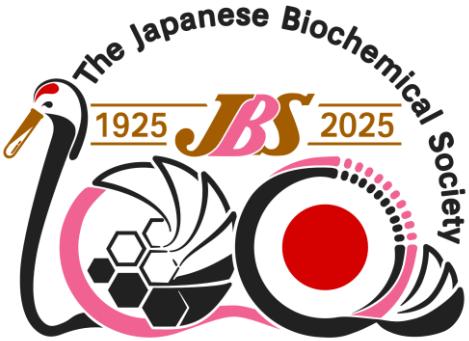
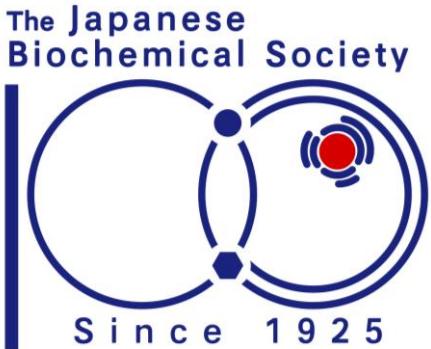
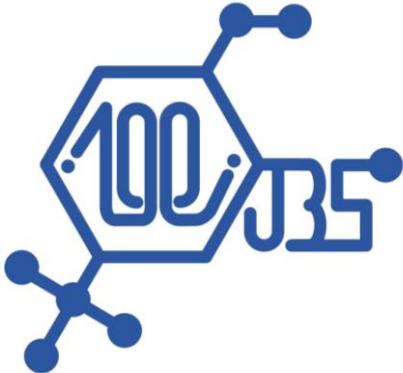
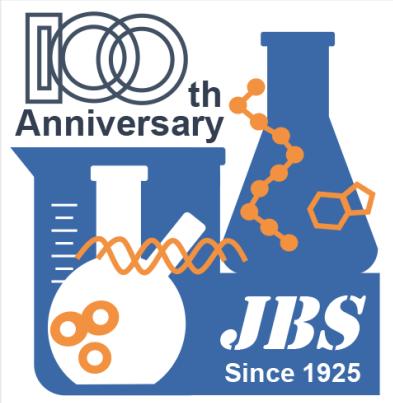
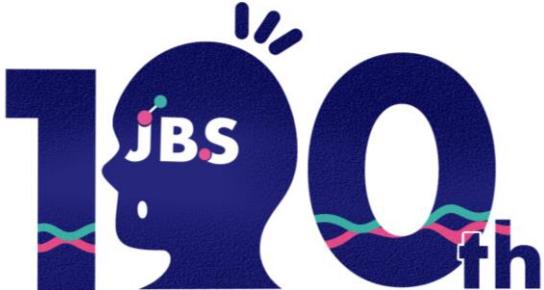


1		12	
3		14	
4		16	
10		18	
11		20	

生化学会創立100周年記念ロゴマーク 最終候補作品 <23作品>

<p>21</p>		<p>33</p>	
<p>22</p>		<p>40</p>	
<p>25</p>		<p>43</p>	
<p>27</p>		<p>44</p>	
<p>28</p>		<p>48</p>	

52



53



55



## 100周年ロゴマーク応募者

受付番号	作品に関する意図、コメント
1	100周年の100をの文字に日の丸の赤と白、未来永劫学会発展が続くよう願う金色を用いて、伝統あるJBCのロゴを浮き出しております。
3	<p>日本生化学会御中。</p> <p>この度は100周年となり欢喜しております。私は大学院から生化学講座に所属いたしましてBiochemistとして研究者人生を過ごしてまいりました。名古屋市立大学へ28年前に助手として赴任いたしました当時、本講座の前任であった田中亮名誉教授が時折教室へ訪ねて来られ多方面にわたる体験談をお話下さいました。そのような中で日本生化学会のロゴの原画が方眼紙付きのトレーシングペーパーに描かれているのを見せて頂いたのを大変懐かしく思い出します。今回100周年の記念ということですから日本人の5名のノーベル医学生理学賞受賞者に因んで5つの実を付けたオリーブの冠をデザインさせて頂き、田中亮先生が考案された日本生化学会のロゴに重ねたデザインを提案させて頂きます。今後の更なる発展と成果を祈念しております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。</p>
4	生化学という分野が時代の流れや科学技術の発展と共に変化し、他分野とも交じり合いながらも過去から現在、未来へと紡がれていくというコンセプトのもとロゴを作成いたしました。
10	<p>日本生化学会の英語名の頭文字JBSをデザイン化したロゴは長年会員に親しまれているだけでなく、海外でも認知されています。このロゴを活かすことは、日本生化学会のこれまでの歴史と功績に敬意を払うものです。</p> <p>JBSの象徴的意味と「100」という記念すべき数字、および「その先」という意味の「beyond」という文字を組み合わせました。「beyond」の意味するところは、今日の知識や理解を超えて未知の領域に挑戦し続ける姿勢を示しています。よって、日本生化学会が100年の歴史を背景に今後も未知を解き明かし続けることを表現しました。</p> <p>またJBSの文字の下にはDNAの二重らせん構造のデザインを配置しました。DNAは生化学が研究対象とするあらゆる生物の基本物質です。しかも、このデザインはDNAへのgene editingも表現しています。Gene editingは人工的な遺伝子編集技術であり、ゲノム変革をもたらしますので、「beyond」にかけて日本生化学会が今後も革新的で進化していくことを表現しています。</p> <p>「100 years and beyond」の文字の色は、単にJBSの文字の色に合わせただけでなく、多くの国でdark blueは洗練、権威、高い専門性の象徴的な色です。また、light blueは若さや率直さを象徴する色です。この2つの色の組み合わせは、日本生化学会の未来への発展と成長を示しています。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体として100の文字を示して100周年であることをストレートに伝えるようにした。</li> <li>・1は点と線を用いて示していて、点から線へと次元を超えるイメージとした。</li> <li>・1つ目の0は細胞を模して中央に核を置いた。2つの0は「生命」と「物質」の2つをイメージしており、2つの融合による「生化学」という分野を示している。</li> <li>・また、中央の白と赤は日本の国旗をイメージした。</li> <li>・全体の色としては赤、緑、青の三原色を使って様々な色になることを示しており、幅広い分野への融合により発展していくよいうに願いを込めた。</li> </ul>

## 100周年ロゴマーク応募者

受付番号	作品に関する意図、コメント
12	100th ANNIVERSARYの文字の中に、日本生化学会が一世紀にわたり日本の基礎医学と生命科学を牽引してきたことと、新時代の始まりを、白地に紅色のグラデーションの円であらわしました。また、遺伝子と染色体を一連のように配置し、生命科学の象徴としました。JBSの学会ロゴと合わせて使用いただくことを想定しています。
14	<p>下記の点を意識しながら作成いたしました：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・100周年の100をそれぞれ実験で用いる器具・機器で表現（1=メスシリンダー、0=丸底フラスコ、0=顕微鏡）。</li> <li>・100周年の100thの“th”部分でt=基礎医学への貢献(シリンジと薬)、h=人々の健康への貢献(健康な人)、を表現。</li> <li>・丸底フラスコからtの部分繋ぐことで、生化学で得られた結果が基礎医学や人々の健康などへの貢献に繋がることを表現。</li> </ul>
16	小さいサイズでも「100」周年であることがわかるように、大きいサイズなら「日本生化学会の全体的なイメージ」が伝わるように、デザインしました。
18	<p>現在のロゴの雰囲気や色を使用して100周年が伝わるようデザインしました。</p> <p>その理由としては、これまでの歴史を感じられる要素を取り入れることで、信頼性や親しみやすさを感じることができる考えたからです。また、現在のロゴの雰囲気に加えて、シンプルなデザインを加えることで現代の要素も取り入れ視認性も高いロゴとなっています。</p> <p>このロゴから日本生化学会の過去・現在・未来に対する期待感と信頼感を感じていただけたらと考えています。</p>
20	日本生化学会設立100周年の「100」とモレキュラーのイメージ、また「JBS」のオリジナルロゴを取り入れたデザインです。
21	<p>本作品は日本の文化において長寿の象徴である鶴をモチーフとしたロゴです。</p> <p>日本生化学会が100年のみならず今後も末永く発展していくことを祈念したものです。</p> <p>鶴のくちばしは生化学実験のシンボルとしての試験管を模しており、そこから飛び出した液滴によって鶴の頭から首・羽・胴体が形作られております。</p> <p>鶴の首・羽・胴体で数字の100を表現しており、一つ目のゼロは鶴の羽で、二つ目のゼロは鶴の胴体です。羽は化学・生化学のシンボルとしての六角形（ベンゼン環もしくは六員環グルコース）から連続的にデザインし、胴体の円は生物学のシンボルとして細胞を表しています。（脂質二重膜、核）。その細胞の核は赤色で日の丸を表現しており、本邦の生化学研究が世界の中心となって発展していく願いが込められております。ロゴの一部分に用いられている桃色は、日本の伝統として、100歳のお祝い（百寿）で桃色の贈答品が贈られることから使用しました。</p>

## 100周年ロゴマーク応募者

受付番号	作品に関する意図、コメント
22	<p>本作品は、数字の100をモチーフとした、分かりやすくシンプルなロゴです。 海外へ向けての使用も考慮して、英語のロゴといたしました。</p> <p>100の二つのゼロは化学のシンボルとして共有結合をイメージさせる形で結合しています。その共有結合の電子の一つは、生化学のシンボルとして六角形（ベンゼン環もしくは六員環グルコース）で表現しました。また、二つのゼロのうち右側の一つは細胞を表しており（脂質二重膜と核、小胞体）、その核は日の丸を表した赤色で表現されています。</p> <p>さらに、その核は鼓動する心臓のようにも見え、本邦の生化学研究が世界の中心となって発展していく願いが込められております。</p> <p>また、赤色の核以外の文字・図形は日本の伝統色である濃藍で統一しました。</p>
25	<p>今回100周年と言う名誉ある記念日にこのような機会を設けていただきまして誠に有難う御座います。生化学会様の更なる飛躍と発展をお祈りしています。</p> <p>デザインの主旨としてはまず印象かと思いそこからデザインを進めて行きました。化学と聞いて色々考え、モノを作っているモト。元素や原子があつての生化学があると元素や原子思いデザインしていました。勿論100周年後も100thAnniversaryのフォントをとって使用して行くことも考慮してみました。スターバックスもそうですが元々はフォントがありました。知名度が上がり現在はロゴマークだけでスタバと同じ様に世間にも認識されて行ける様になればと思つて考えました。色はセロトニンを分泌させ心を落ち着かせると言われる青系にしてみました。勿論色の変更等ありましたらご連絡頂ければ対処致します。宜しくお願い致します。</p>
27	<p>今回100周年と言う名誉ある記念日にこのような機会を設けていただきまして誠に有難う御座います。生化学会様の更なる飛躍と発展をお祈りしています。</p> <p>このデザインは生化学会の名前からイメージされる化学的なイメージと日本語との融合を意識してデザイン致しました。JBSと言う素晴らしい略語もありますがあえて日本語を使用して認知度を上げやすくしてみました。日本語を用いた事により素人の方々が目にしても何かしらの化学的な事を行っている団体と解るのでは無いでしょうか？</p> <p>勿論100周年後も100thAnniversaryのフォントをとって使用して行くことも考慮してみました。スターバックスもそうですが元々はフォントがありました。知名度が上がり現在はロゴマークだけでスタバと同じ様に世間にも認識されて行ける様になればと思つて考えました。色はセロトニンを分泌させ心を落ち着かせると言われる青系にしてみました。勿論色の変更等ありましたらご連絡頂ければ対処致します。宜しくお願い致します。</p>
28	<p>ビーカーやフラスコなどの実験機器をベースにあらゆる生命現象に関わる化学物質や構成物である核酸やアミノ酸、細胞のモチーフを組み合わせてこれまでの100年、さらに、これからの100年の生化学の基盤となるイメージを表したロゴです。</p> <p>JBSの部分をキャッチフレーズなどの言葉に置き換えて使用することも可能です。</p>
33	<p>00のゼロの部分は、顕微鏡のレンズを示しており、多くの研究者の方々が覗いてきたことを表しています。レンズの向こう側には、DNAが映し出されており、次世代へと受け継がれていくものであることをしめしました。</p>

## 100周年ロゴマーク応募者

受付番号	作品に関する意図、コメント
40	A案の派生デザインとなります。 より認識しやすいシルエットになるように設計しました。
43	「生化学を中心とした基礎医学や生命科学の【発展】に貢献してきた」イメージとして、メインオブジェクトに「右に向かって広がる形」をおきました。色は、生化学会ホームページでよく使用されている深めの青を基調としました。3つの図形は、「六角形」が【化学】のイメージ、「変形した楕円が繋がったような形」は【生物学】のイメージ、「正円」が【基礎医学】のイメージで、それらが重なり合って、100周年を表す100thの背景に置かれています。
44	ノーベル化学賞を受賞された下村博士の研究に関連するオワンクラゲをモチーフにしました。 0の中に配置したきらめきのようなダイヤ形は、生化学が社会にもたらす希望とGFPの光を表現しています。 また、様々な分野が関わる生化学会のイメージを、 基礎医学・生命科学を想起させる配色とグラデーションで表現しました。 これまでの100年の研究者達への敬意を表すとともに、 これからの100年を見据え、若々しく、明るい未来を感じられるデザインにしました。
48	生化学会（JBS）の100周年の中心に研究者の自由なアイデアがあることを表しました。スタイリッシュなデザインにし、アカデミックな雰囲気を残しながらも、丸みのある親しみやすい形にしました。
52	「生化学を中心とした基礎医学や生命科学の【発展】に貢献してきた」イメージとして、メインオブジェクトに「右に向かって広がる形」をおきました。同時にこの形はJBSの「J」を模しています。 100周年を表す100の「1」は人体を簡略化した形で【基礎医学】をイメージし、2つの「0」のうち六角形は【化学】のイメージ、二重の円は脂質二重膜の細胞を示していて【生物学】のイメージです。色は、生化学会ホームページでよく使用されている深めの青を基調としました。
53	私たち生命の最も基本的な営みであり、この100年間の中で生化学を含む生命科学の重要な発見である「セントラルドグマ」をイメージしている。また100周年を迎えた日本生化学会がこれからも未長く発展していくことを祈念し、生化学会ロゴの基本色であるネイビーを取り入れ、無限∞をモチーフとした。
55	分子をモチーフとし、100周年を表現。 繋がる円（原子）は世代や性別、国籍をも超えた人々を表し、多様な視点が集まることで新たな発見が生まれるようにとの願いを込めている。 また、末端の線を閉じない事により、これからの可能性を閉じることなく、未来へ挑戦していくという姿勢も表現している。